経済統計学会第 50 回(2006 年）全国総会（大阪経済大学）2000・9・17

独立行政法人国立女性教育会館におけるジェンダー統計活動の経過・現状・課題

独立行政法人国立女性教育会館　中野洋恵

はじめに

独立行政法人国立女性教育会館（ヌエック）は、女性教育指導者その他の女性教育関係者に対する研修、女性教育に対する研修、女性教育に関する専門的な調査及び研究等を行うことにより、女性教育の振興を図り、男女共同参画社会の形成の促進に資することを目的として、研修、交流、情報、調査研究の４つの事業を展開している。開館以来、これらの事業をすすめるために、ヌエックでは女性の状況を示す統計データが必要不可欠であるという認識から基礎的データの収集に力を入れてきた。本報告では、これまでのヌエックが実施してきたジェンダー統計活動の経過・現状・課題について報告する。

１　ヌエックのジェンダー統計活動の経過

1.1　「統計に見る女性の現状」の作成

女性をとりまく社会状況の変化、女性の生き方の多様化に対応し、女性たちが自らの最も欲する生き方を主体的に選択することが必要であり、その際の手がかりとして、女性の置かれている今日的状況の基礎的条件を的確に把握することが必要、という認識から昭和 62 年から刊行された。構成は全体を７分野（①人口・人口動態・ライフサイクル等、②家族・家庭、③健康・福祉、④教育・学習、⑤労働、⑥社会的活動、⑦性別分業観に関する意識）に分け各分野のはじめには「解説」欄が設けられている。戦後の女性の変化を把握するため、原則として昭和 20 年代からの推移を掲載。平成８年、第６版まで作成。

1.2　女性及び家族に関する統計データベース研究開発

平成４～８年度「女性及び家族に関する統計の調査研究」の実施。「西暦 2000 年に向けての新国内行動計画（第一次改定)」（平成３年５月）に「統計等、国が提供する情報の内容が男女平等の推進に役立つよう配慮する」とあり、女性の地位及び役割の改善にとって統計データの整備が緊急の課題となった。この課題に対応し、ヌエックでは「女性と男性に関する統計データベース」に着手。

このデータベースは初め、国立女性教育会館が行った「女性及び家族に関する統計の調査研究」における作業結果から「女性及び家族に関する統計データベース」として平成９年に公開。当初はパソコン通信で提供されたため、表の形式にかなり制約があった。その後平成 11 年１月にＷｅｂで公開され、エクセルでダウンロード可能になり、さらに平成４年５月「女性情報シソーラス（女性に関する情報を効率よく検索するための用語集)」を組込み、キーワード検索の充実を図っている。

データベース構築の基本方針①性別表示、②収録問題分野 13 分野（1）人口構成と変化、2)世帯・家族・婚姻等、3)労働、4)消費と生活、5)教育・学習、6)住居・住居環境、7)健康・医療、8)社会保障・福祉、9)安全・犯罪・司法、10)意思決定への参画と社会的活動、11)スポーツとレクレーション・文化、12)意識調査、13)国際比較、③表の詳細度は簡略表と詳細表、④年次収録範囲は 1970 年前後までさかのぼる、⑤収録範囲はまずは全国表の集成、⑥主要な統計資料は国際比較表を収録、⑦資料出所は基本的に日本の政府関係統計書、⑧ネットワークを通じての統計の配布。

1.3　ジェンダー統計に関する調査研究の充実

平成７年「第４回世界女性会議」以降、男女共同参画社会形成のための統計データの充実が大きな課題となる。

平成 13 年　性別データの収集・整備に関する調査研究（内閣府からの委託）

課題は、日本の主要政府統計について①調査票における性別の調査項目の現状、②集計表における性別集計結果の表示状況、③他の属性分類と性別クロス集計結果の表示状況、④他の属性分類と性別クロス集計結果の表示状況、⑤性別の集計表が存在する場合の集計項目の収集。

検討結果を①ジェンダー問題の確認、②必要統計の提起、③関連統計の検討・評価、④改善方向としてまとめた。

平成 13～14 年度「ジェンダー統計に関する調査研究」

平成 15 年研究成果を反映させたデータ集の作成

①「男女共同参画統計データブック、日本の女性と男性 2003」の出版

12 章構成（1）人口、2)家族と世帯、3)労働力と就業、4)労働条件、5)生活時間、無償労働と余暇活動、6)家計と資産、7)教育と学習、8)社会保障と社会福祉、9)健康と保健、10)安全、犯罪と暴力、11)意思決定、12)意識調査、その他（用語解説、文献とウェブサイト案内、付属資料)、各章末の統計解説に「性別データの収集・整備に関する調査研究統計」の成果である、主な統計資料、検討評価、改善方向が示されている。

②リーフレット（ミニ統計集　日本の女性と男性 2002-2003）作成

最も基本的なデータを集め A4 三つ版とともに英語版も併せて作成した。

2　ヌエックのジェンダー統計活動の現状

2.1 研修プログラムにおけるジェンダー統計の活用

ヌエックの主催事業（女性関連施設職員、団体・グループのリーダー、海外の行政関係者等を対象としたプログラム）においてデータブック、リーフレット、データベースのジェンダー統計を活用するとともに、研修参加者からのニーズを把握しユーザーフレンドリーな提供を検討している。

2.2 「男女共同参画統計データブック、日本の女性と男性 2006」の出版

「男女共同参画統計データブック、日本の女性と男性 2003」のデータを更新するだけではなく、新たな課題に対応したデータ（ワークライフバランスや女性に対する暴力等）を提供するとともに要望の高かった都道府県別のデータを掲載した。

3　今後の課題

ジェンダー統計は特に地域でその重要性が求められるようになっている。国の男女共同参画基本計画（第２次）に対応してそれぞれの地域で新たな計画の策定が始まっているからである。地域に即したプランが求められ評価が厳しくなる中、ジェンダー統計の充実は急務である。そのために具体的には①ジェンダー統計に関する行政担当職員や地域の男女共同参画を推進するグループに対する研修の充実、②地域の男女共同参画の状況を示す統計データの作成、③ユーザーフレンドリーなデータ提供、④ジェンダー男女共同参画プランの評価指標の構築、⑤ジェンダー統計を軸としたネットワークの形成などを行っていく必要がある。

★参考資料は当日配布する予定